

研究タイトル：

日朝交流史にみる都市・社会の変容



氏名：	上島 智史 / UESHIMA Satoshi	E-mail：	
職名：	助教	学位：	(博士(文学))
所属学会・協会：			
キーワード：	景観、地域研究、大韓民国		
技術相談 提供可能技術：	地図・古地図に関する調査、地理書・歴史書の執筆・編集、 中学校・高等学校・大学における地理教育、韓国語文献調査		

研究内容：

- ・古地図や古記録から、かつての都市・村落景観を再現・分析
- ・日本や韓国で現地調査に行き、国境を越えて活動した人々の記憶と痕跡をたどる



釜山の旧日本人墓地、墓石が現地の石材となっている(2011年撮影)

語られなくなった地物に耳を傾け、地域に刻まれた歴史をたどっていく

日本の県庁所在地は、近世城下町を基盤として発展してきたものが多くあります。かつての城下町の痕跡は、鉤型路(遠見遮断)や土地区画として現在でも残っている場合があります。こうした地域に刻み込まれたかつての記憶を古地図や古文書、現地踏査からたどっていく研究をしています。

最近、日朝交流の拠点となった大韓民国・釜山広域市を調査・研究しています。釜山では、倭館とよばれる交易所が17世紀に設けられ、それを基盤として19世紀末から近代都市化していきます。釜山には、近世から長崎県の対馬出身者が多くいましたが、開港以降は本州からの日本人が多く移住するようになっていきます。釜山での調査・研究を通して、朝鮮半島における近代都市形成と日本人社会の変容について追究していきたいと考えています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	